

セグロウリミバエまん延防止のための

不要果実・残渣の 処分方法について

(2025年6月)



沖縄県病害虫防除技術センター（2025年6月作成）

1 寄生果の発見状況

○セグロウリミバエの発生が見られた場所

- ・ **家庭菜園**や**庭先**などで栽培されている果実

適切な薬剤防除や果実への袋かけが実施されていない。また、黄化や腐敗の見られる果実が残っている菜園もあり、多くの寄生果が発見されている。

- ・ 経済栽培の圃場では、**栽培終了後の放置された果実**から寄生果が発見されている。

※露地栽培であっても、慣行防除による適切な管理が実施されている圃場では、出荷物からの発見事例は無い。



そのため、不要な果実は早めに処分しましょう

○不要な果実とは

- ・ 食べない・食べられない果実
- ・ 出荷しない果実
- ・ 摘果した果実
- ・ 黄化・褐変・腐敗等が見られる果実
- ・ 栽培終了後の圃場に残っている果実
- ・ 野生の寄主植物 など



過熟等で食べられなくなった果実



出荷できなかった果実



黄化・腐敗または摘果した幼果



鳥獣の被害果実
(産卵されやすい?)



野生の寄主植物
(ケカラスウリ等)

2 対象となる作物

【野菜類】

うり科植物全て（ゴーヤー、カボチャ（ズッキーニを含む）、ヘチマ、スイカ、トウガン、キュウリ、メロン、モーウイ、シロウリ、マクワウリ、ユウガオ、ハヤトウリなど）、いんげんまめ（サヤインゲン）、トマト（ミニトマト含む）、ピーマン（パプリカ含む）、とうがらし、野菜パパイア（青パパイア）、ペピーノ

野菜類（抜粋）

カボチャ



ヘチマ



ゴーヤー



モーウイ



スイカ



ピーマン



サヤインゲン



トマト



【果樹類】

くだものといけい（パッションフルーツ）、ヒロセレウス・ウンダーツス（ドラゴンフルーツ）、パパイア、ぱらみつ、ばんじろう（グアバ）、サポジラ、ふともも（フートー）、まれいふともも、やえやまあおき（ノニ）、すもも、ウママンゴウ

果樹（抜粋）

パッションフルーツ



グアバ



ドラゴンフルーツ



パパイア

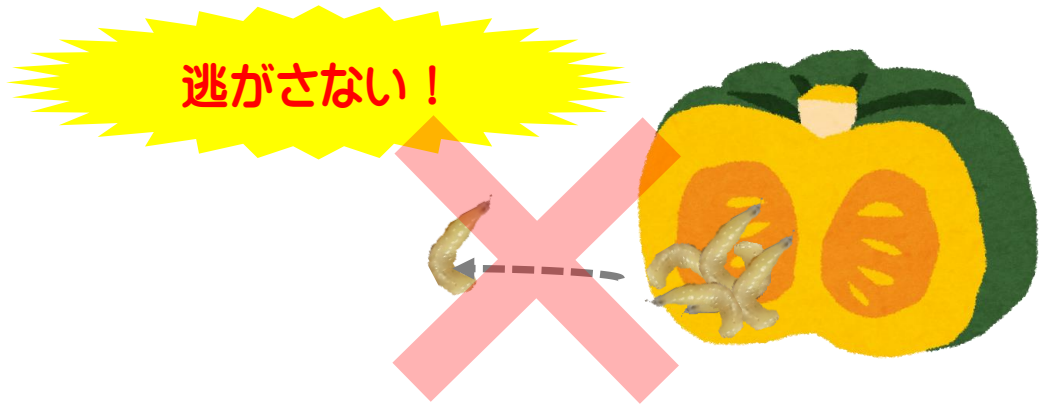


3 処分の考え方

●セグロウリミバエの寄生がある場合

【野菜類・果樹類共通】

果実からの逃亡を防ぐため、セグロウリミバエが外に出られないように処分するか、セグロウリミバエを死滅させてから処分する。



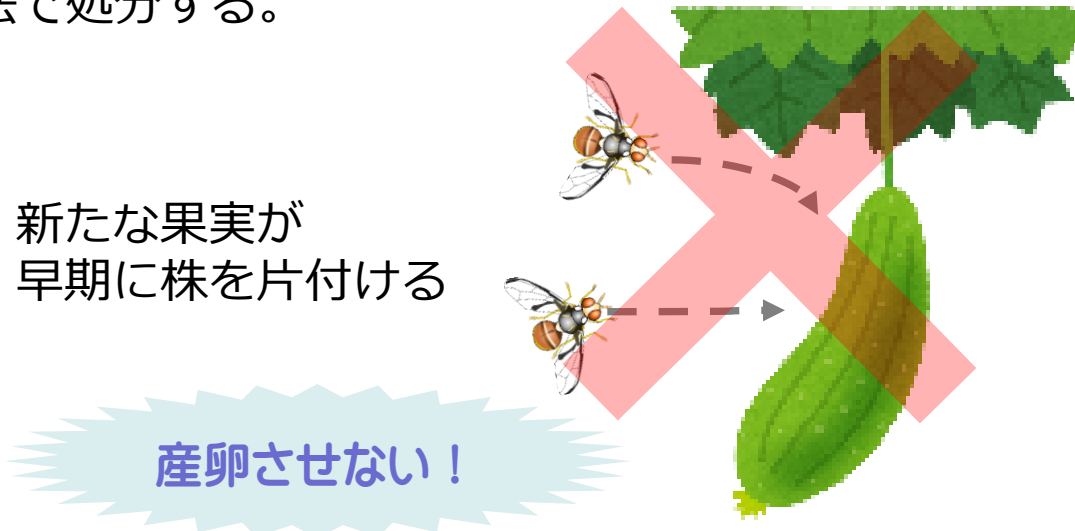
●セグロウリミバエの寄生が無い場合

【野菜類・果樹類共通】

果実への産卵を防ぐために、セグロウリミバエが果実を探せないようにする、またはセグロウリミバエが果実に触れられないような方法で処分する。

【野菜類】

栽培終了後は、新たな果実ができないよう、早期に株を片付ける



果実の処分①（寄生がある場合）

- ・セグロウリミバエが既に寄生している、またはその可能性がある果実の処分は、以下に気を付けながら行います。
- ・セグロウリミバエが野外に出てこないように処分する方法（埋設処分）と、果実内のセグロウリミバエを死滅させてから処分する方法（密閉・蒸し込み処分、冷凍処分）があります。

1）深く埋設する

敷地内に深い穴を掘って果実を埋設します。
果実の上から20cm以上の厚さの土をかぶせ、果実内のセグロウリミバエが地上に出てくるのを防ぎます。
※浅く埋めると土中で蛹になり、羽化して地上に出てくる可能性があります。



2）密閉・蒸し込みする

不要な果実をビニール袋に入れて、袋の口をねじって固く縛りガムテープ等で密閉します

ビニール袋内部のセグロウリミバエを死滅させるために、夏期は1週間以上、冬期は1ヶ月以上野外で保管します。

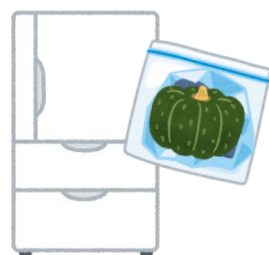
保管後は各市町村のゴミ区分にしたがって処分します。



3）冷凍する

処分する果実をビニール袋に入れて密閉し、2～3日間冷凍します。

その後、各市町村のゴミ区分に従って処分します。



果実の処分②（寄生が無い場合）

- ・現時点でセグロウリミバエの寄生がなくても、不要な果実を畑に放置すると、侵入してきたメス成虫が産卵してしまう危険性があります。（特にウリ科の果実は廃棄後もとても長持ちします）
- ・それを防ぐため、メス成虫が果実を探せないようにするか、または果実に触れられないようにするよう、以下の対策をお願いします。

1）埋設する

- ・穴を掘り処分する果実を入れて、果実が完全に見えなくなる程度、上から土をかぶせます。



2）密閉する

- ・処分する果実を集めてビニール袋に入れて密閉します。その後は市町村区分に従って処分します。



3）ビニールで被覆する

- ・処分する果実を集めて上からビニールで被覆します。ビニールの裾は埋めるまたは固定し、裾からのセグロウリミバエの侵入を防ぎます。

※果実の原型がなくなってから、ビニールを取ってください。

※台風対策等で一時的にビニールをはがす場合は、台風通過後に再度設置してください。



栽培終了後の対策

- 栽培(出荷)終了後も、植物が新たな雌花や果実を付け続け、虫の発生源となることがあります（特にウリ科作物）。
- 果実への産卵を防ぐために、セグロウリミバエが果実を探せない、または果実に触れられないようにすることが大切です。

露地

1) 残っている果実や雌花を除去する

- ・栽培終了後は、着果実や雌花を集め、前頁の「果実の処分」に従って処分します。

2) 株を片付ける

- ・栽培の終わった作物で新しい雌花や果実ができるのを防ぐため、早期に株を処分します。
＜処分例＞
 - ・早めに株をすきこむ
 - ・残渣を集めて埋める



※イメージです

施設

1) 施設外に植物体（残渣）を持ち出す場合

①残っている果実や雌花を除去する

- ・栽培終了後は、着果実や雌花を集め、前頁の「果実の処分」に従って処分します。

②株を完全に枯らしてから、施設外に持ち出す

- ・株が新たに雌花や果実をつけることを防ぐために、抜根後に施設の蒸しこみを実施する等、植物を完全に枯らしてから持ち出します。

2) 施設内で植物体（残渣）を処分する場合

①果実や雌花が残っている状態で施設を開放しない